

F-19 明治以降における家政に関する教育の発達について(第1報-3)
東京家政学院大家政 手塚六郎 中村ヨシ 亀高京子 熊田知恵
○板谷麗子 三東純子

目的 第1報-1と同じ

方法 第1報-1においてとりあげたものと同じ著書について、食物に関する部分を現在の食物学の分野別に準じて分類し、当時の文化・習慣・食糧事情などと関連づけて考察した。

結果 1) 食物について翻訳的家政書では、わが国従来の食習慣であった炭水化物偏重・満腹主義を是正し、栄養の方面に目を向ける啓蒙的役割がみられる。輸入食品の紹介や、食品成分表らしいものゝ記載は興味深い。尚調理に関しては、婦女の重務であるが、初期には訳出しても世間一般に通用しないとして省かれているものが多い。翻訳以外の著書では、栄養に関する事項が少なかったり、記されていないものもある。食品や調理に関する記載分量や取扱い方には著者毎にかなりの差異がみられる。

2) 食品の購入や利用と関連づけて節約の必要性を説き、具体的に例示してあるものが多い。

3) 翻訳書では食品について宗教的叙述のあることが特徴的である。